

第1学年 第4時指導案【群馬の工業と交通】

1. ねらい

群馬県の交通の様子を調べたり、公共交通機関の利用増加を考えたりする活動を通して、資料を的確に読み取り、社会に対して関わろうとする意欲を高める。

2. 準備

[教師] 副読本 地図帳 資料プリント ワークシート パソコン プロジェクター

[生徒] 副読本 地図帳 自己評価カード

3. 展開

生徒の学習活動	支援、指導上の留意点	欄
<p>「車社会」と群馬県が言われているのはなぜか考え、学習に対する興味・関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車の普及率が高いから ・自動車運転免許の保有率が高いから ・どこへ行くのにも自動車を使うから 等 <p>統計資料のグラフから、群馬県の工業の特色や全国的な地位を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械の割合が大きい ・輸送機械の生産額が一番大きい ・太田市の工業生産額が大きい ・全国的に見ても、工業の生産額が大きい <p>交通の様子と人口の概要を調べ、交通が発達しているのはどういうところが考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口は土地の低い南東部に多い ・人口が多いところは、交通が発達している ・土地の低い南東部は、交通が発達している ・工業が盛んなところは、交通が発達している ・東京に近いところは、交通が発達している 	<p>群馬県が昔「くるま」という名前だったこと、自動車の普及率や運転免許の保有率が全国でも高いこと等を説明する。学習への導入段階であり、深入りはしない。</p> <p>富士重工業の前身・中島飛行機の技術や工場跡地などが、自動車工業や電気機器工業に受け継がれていること、富士重工業が生産した自動車が普及率を上げたこと等を簡単に説明する。</p> <p>統計のグラフ資料は、タイトル、年、単位など基本的な事柄を押さえながら読み取りをさせる。工業生産額上位五都市の概要についても、簡単に説明をする。</p> <p>考えやすいよう、鉄道や高速道路、国道が集中している状態を「交通が発達している」とする。交通の様子を提示する際、との関連から、道路、鉄道の順番で提示する。</p> <p>人口の様子（増減率、人口密度）は一問一答式で理解させる。居住市町村の様子もその都度確認させる。人口と交通の相関が分かりづらいので、人口密度は合併前の資料（前回国勢調査のもの）を使用する。現時点での人口密度は、数値を口頭で提示する程度にする。</p>	5
<p>コミュニティバスの利用を増やすにはどうしたらよいただろうか？</p>		
<p>コミュニティバスの長短を考えた上で、利用を増やしていくためにはどうしたらよいか、自分なりに考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運賃をもっと安くすればよい ・駅と学校とをまっすぐ運行してくれればよい ・自転車を載せて乗れるようにすればよい 	<p>コミュニティバスが導入されている背景、利点、運行の様子等について説明する。運行の様子については、考えやすさと興味・関心を高めることを考慮して、学校の近くを走る高崎市営の「ぐるりん」京ヶ島線ものを提示する。</p> <p>実感を持ち、社会参加への意欲が持ちやすいよう、公共交通機関等の長短は生徒の生活経験に基づいて考えさせる。考えが広がらない場合、必要に応じて教師からも長短が提示できるよう、資料を用意しておく。</p> <p><u>【評価】コミュニティバスの利用増加について、自分なりに考える（ワークシート・観察）《興》《考》</u></p>	3 5
<p>本時の学習を終了した時点での「群馬県はどんなところ」を考えて書く。</p>	<p>主に交通面から見た群馬県について書かせる。今後、交通についてどうなってほしいか、どう利用していきたいか、などについても書かせる。</p>	5

交通の様子と比較して考えよう

(略)

帝国書院 Web 内の「小中校生のページ / 都道府県を調べよう / 群馬県 ()」の人口と工業の地図を掲載し、隣に群馬県の人口 (上位の 1 2 市町) と工業出荷額 (上位 5 市町) を掲載した。

http://www.teikokushoin.co.jp/09_japan/pre/index10.html

中島飛行機とは

戦前存在した、日本の航空機、エンジンのメーカー。中島知久平が旧・尾島町 (現・太田市) に「飛行機研究所」を設立したのに始まる。自社で開発、一貫生産する高い能力と技術力を持ち、太平洋戦争が終わるまでは、三菱航空機をしのぐ日本最大、世界有数の航空機メーカーだった。呑龍工場や太田製作所、前橋工場など、県内外に多くの工場があった。陸軍の主力戦闘機などを製造した。戦後、富士重工業をはじめいくつかの会社に解体されたが、その多くは現在も存在している。

(写真資料を省略) 写真資料～「九七式戦闘機」「アメリカによる空襲を受ける小泉工場」

コミュニティバス

群馬県のコミュニティバス

住民の移動手段確保のために、市町村が運営し、お金を出しているバス。

前橋市の「マイバス」(北循環、南循環の 2 路線)、伊勢崎市営バス (1 5 路線、無料)、桐生市の「おりひめバス」(8 路線) などがある。

高崎市のコミュニティバス「ぐるりん」

高崎市でのバス運行のピークは昭和 4 5 年。当時は 1 2 5 系統のバス路線が運行していた。それが平成 9 年 4 月には 4 0 系統まで減少した。原因としては自家用車の増加があげられる。

当時運行していた路線バスを生かした上での新しいバス路線をつくらうということになり、循環バスという形になった。そして、現在の「ぐるりん」バスが誕生した。

現在路線バスが運行していない地域を中心に、できるだけ公共施設を回るようにまた、バス停留所 (ていりゅうじょ) は 5 0 0 m ごとを目安に設置されている。運行開始は、平成 9 年。

運行目的は、交通弱者の交通手段の確保 公共施設の利用促進 商店街の活性化 等

(のびゆく高崎 CD - ROM より)

【運行路線】 少林山線、高経大線、大八木線、京ヶ島線、群馬の森線、倉賀野線、観音山線の各 2 路線、合計 1 4 路線

【 運賃 】 大人 2 0 0 円 小人 (小学生以下) 1 0 0 円 1 日フリー乗車券 500 円 回数券 1000 円 (1200 円分)

1 日 1 0 便運行 (1 ~ 1 . 5 時間に 1 本)

「中央中等教育学校入口」からの時間

- ・ 井野駅近く「中川長寿センター南」など 9 ~ 1 0 分 (系統 8 上大類先回り)
- ・ 高崎駅 「高崎駅東口」 2 7 分 (系統 8 上大類先回り)
- 「高崎駅西口」 4 8 分 (系統 7 高女先回り)
- 「高崎駅東口」と「高崎駅西口」の時間 (路線 1 周) 1 時間 1 7 分

(写真省略)

(以後略)

以後、ぐるりん京ヶ島線の路線図と時刻表を掲載した。

群馬県は、なぜ「車社会」と言われるのだろうか？

統計資料を読み取ろう！（副読本p4, 5 / 資料プリント）

- (1)自分が住んでいる市町村の人口密度は(1km²あたり)資料
- (2)人口が多いのは()プリント
- (3)工業出荷額が多いのは()プリント・資料
- (4)交通が発達しているのは()

コミュニティバスの利用を増やすには
どうしたらよいだろう？

なぜ利用しないのか？



こうすれば、コミュニティバスを利用します！

でも、自分たちの考えのようにならなければ、コミュニティバスはなくなってもよいのだろうか？